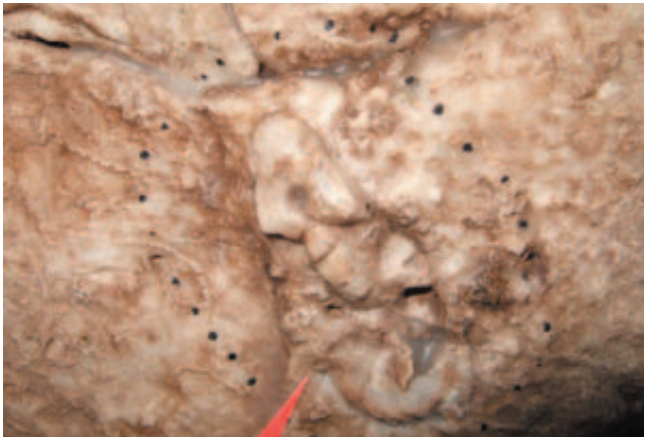
寄贈品コーナー「南の海で生まれた丹沢」

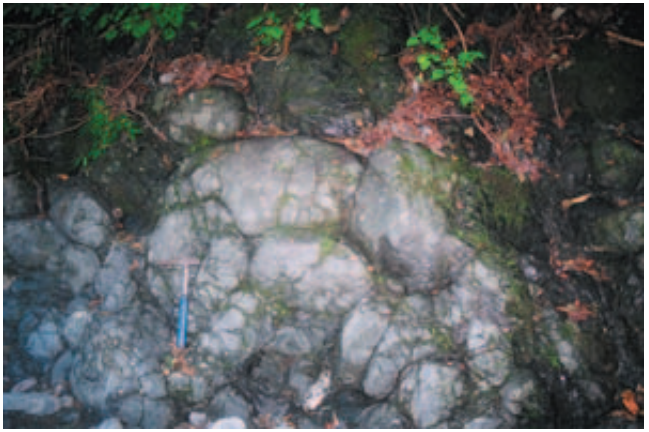
期間：2006年 11 月 1 日（水）～ 12 月 10 日（日）

丹沢山地にはかつての海底火山の噴出物が 1 万メートルを超える厚さで積み重なっており、その岩石はグリーン・タフ（緑色凝灰岩）として知られています。丹沢を流れる相模川も酒匂川も河原の石に緑味がかった石が多いのは、そのためです。プレートテクトニクスの研究が進み、海洋や火山島の堆積物や溶岩の詳細が明らかになり、現在の火山島の様々な特徴や性質を基にして、過去の海底火山についても、次第に明らかになってきました。

丹沢山地は過去 1700 万年前頃、古伊豆・小笠原弧（大島～八丈島～小笠原へ連なる孤の前身）の南の海の珊瑚礁で囲まれた海底火山として生まれ、フィリピン海プレートに乗って年数 cm のスピードで北上し、500 万年前頃、本州孤に衝突し、沈み込めずに付加したものと考えられています。その証拠として、厚い火山灰の他に、海底に流れた溶岩や水中で破砕された溶岩の角礫岩、熱帯を示す珊瑚礁の化石などが、丹沢各地で知られています。南の海で生まれた火山島はこの丹沢島だけでなく、富士山の北側にある御坂山地、富士川の西側にある巨摩山地も、海底火山として生まれ、丹沢に先駆けて、本州に衝突したものと考えられています。

今回の寄贈品コーナーでは、丹沢がかつての南の海の火山であった証拠を示す資料として、丹沢で見られる海底火山の噴出物と、珊瑚礁を作るサンゴ・石灰藻・大型有孔虫・オウムガイなどの化石を展示します。サンゴ化石については、門田真人氏（神奈川県立生命の星地球博物館・外来研究員）の寄贈によるものです。南の海で生まれた火山島に思いを馳せていただければと思います。





右：熱帯に生息するオウムガイ（アツリア）の仲間の化石　山北町白石沢産

左：早戸川上流に見られる枕状溶岩（枕を積み重ねたような溶岩は、かつての丹沢火山の火口から流れた溶岩流が海中に流れたことを物語る）。

写真上）丹沢産のサンゴ化石（左）と房総産のサンゴ化石（右）
写真下）展示の様子

丹沢山地は過去 1700 万年前頃、古伊豆・小笠原弧（大島～八丈島～小笠原へ連なる孤の前身）の南の海の珊瑚礁で囲まれた海底火山として生まれ、フィリピン海プレートに乗って年数 cm のスピードで北上し、500 万年前頃、本州孤に衝突し、沈み込めずに付加したもので、100 万年前以降に、伊豆の衝突により急激に隆起したものと考えられています。丹沢が南の海で生まれた証拠として、海底火山からの厚い火山灰の他に、海底に流れた溶岩や水中で破砕された溶岩の角礫岩、熱帯を示す珊瑚礁の化石などが、丹沢各地で知られています。

今回の寄贈品コーナーでは、丹沢がかつての南の海の火山であった証拠を示す資料として、丹沢で見られる海底火山の噴出物と、珊瑚礁を作るサンゴ・石灰藻・大型有孔虫・オウムガイなどの化石を展示しています。サンゴ化石については、門田真人氏（元東海大学附属相模高等学校）の寄贈によるものです。南の海で生まれた火山島に思いを馳せていただければと思います。